

特247

174

洋資料第三〇一號

昭和十八年八月

セイロン島タミール移民と其の民族政策

財団法人 南洋經濟研究所

始



はしがき

本資料は加藤正明氏から南洋資料にとて寄稿せられたものである。  
本資料を通讀して特に左の二つの事が留意せられる。

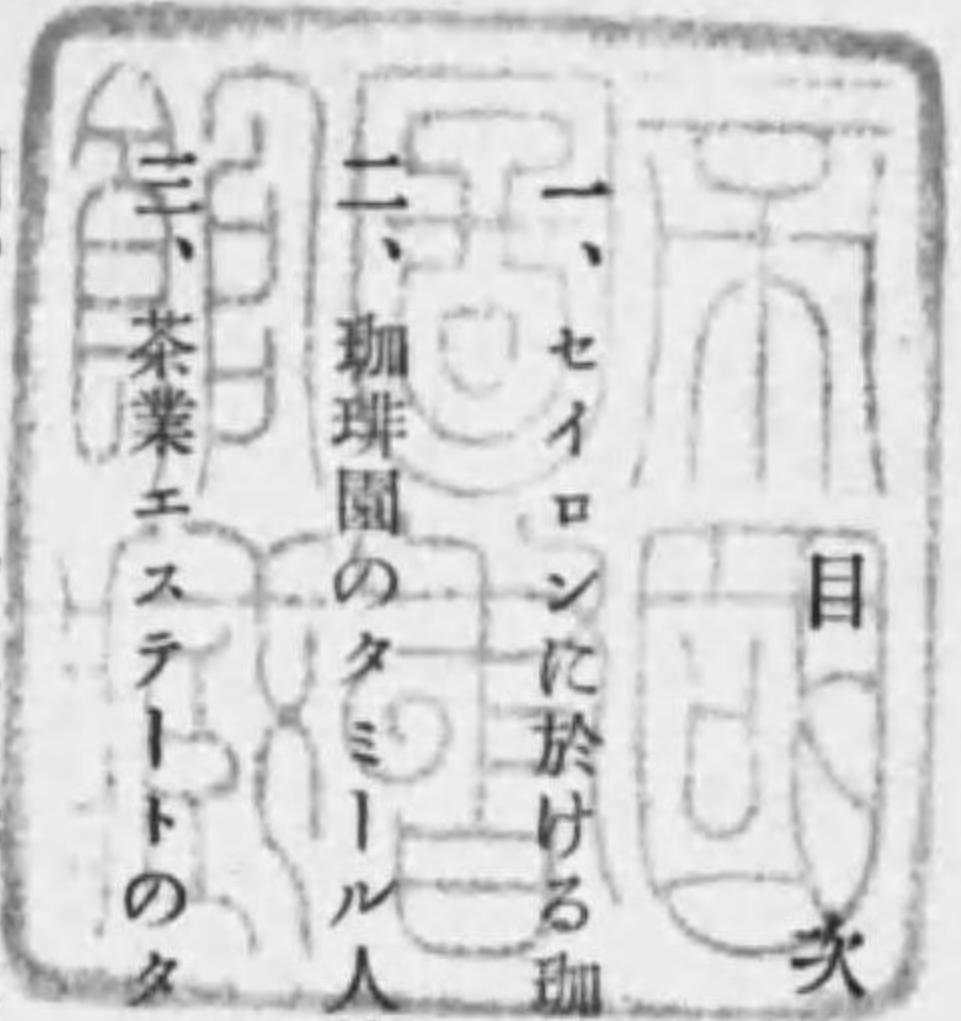
- 一 セイロンに於けるタミール移民は、珈琲栽培に誘發せられたこと多大であるが、この珈琲栽培事業の跡を見ると、何處も同じ、有望と見られると、どつと押しかけ、其の事業を過度にして失敗することである。近くは日本人のアラフラ海真珠貝採取事業に於てかかる一例を體驗した。日本人も多分に此の惡癖を有する。將來南洋開拓に於て特に戒心を要する。
- 二 タミール人が南方開拓の勞力として甚だ留意を要することである。彼等は人間よりも牛馬に「近し」と評せられて居るが、勤勉も倫も温順なこと彼等の右に出でるものはない。特に濠洲開拓には最も適するであらう。

昭和十八年八月三十日

財団法人 南洋經濟研究所

特247  
174

發行所寄贈本



- 一、セイロンに於ける珈琲エステートの興起……………(一)
- 二、珈琲園のタミール人労働者……………(一〇)
- 三、茶業エステートのタミール人……………(一五)
- 四、タミール人の民族政策……………(二六)



### 一、セイロンに於ける珈琲エステートの興起

セイロンに於ける、英國の珈琲栽培が開始されるや、タミール人の労働力が、新たに不可欠のものとなつた。勿論セイロンのシンハリ人もジャングルに馴れ、栽培上の使用に好適であつたが、雇傭する事が困難であつた爲、此に代る安價な住民の労働力が必要となり、その爲に選ばれたのが、南印度に於けるタミール人であつた。

随つて、タミール人の移住を知るには、先づ、セイロン島に於ける珈琲エステートの時代を知る必要がある。セイロンのエステートは、ゴム・茶に先驅けて、珈琲業が英國により先づ採り上げられた。勿論、珈琲のセイロンに於ける歴史は、それよりも古く、和蘭が一七二〇年十月にセイロン島に於て、珈琲の栽培を始めた事が起源である。和蘭の栽培はネゴンボとガルの周圍の低地に限られてゐた。

その地方は氣候風土共に珈琲栽培に不適であつたし、住民も新栽培法に熱心でなく、珈琲の質は、割合良かつたが、併しジャワ珈琲に對して優越する事が出来なかつた。

それでも一九三九年迄に百萬バウンドが輸出された。産地は前記二地よりマタラ (Matara) シヤム (Syane) バスドン (Pasdon) コラレ (Korales) の低地に及んだ。

そして象牙・胡椒・肉桂、ワックスと共に珈琲はセイロンの五大輸出品をなした。併しバタバ

ア側の反対にて、一七三九年に至るやセイロン島に於けるオランダの珈琲栽培は中止された。併しオランダ政府の栽培は中絶したが、シンハリ人の間では珈琲が商品価値のある事を知つて、少量ではあつたが、栽培が續けられた。そして英國のセイロン島領有に至る迄、ムーア人は各村を廻つてそれを集め、コロomboとガルの港へもつてきて、双物及木棉、小間物等と交換した。

英國が和蘭に代り、セイロンに侵入、カンデーを占領するや、一八一五年英國はカンデー高原に珈琲が野生してゐるのを見て、此の栽培に志した。エドワード・バーンズ卿が記念碑の代りにカンデーに通ずる大中央高原道路を開いてくれた事も大いに與つて力があつた。珈琲の栽培を始める前、セイロンは産業的に印度の競争に壓迫されてゐた。例へばピアンゴット近くで、インデイゴ(印度藍)の栽培が始められたが成功せず、島内の沖積平地で、砂糖の栽培が行はれたが、此も失敗した。エドワード卿は一八二五年に、彼の所有するガンガローワのエステートにて、最初の高地栽培にて、珈琲エステートを開いた。それ以前、英人の或る投機家が、ガル附近のギンドラで珈琲園を開いたが、直に失敗したのを見て案じられてゐたが、低地の栽培が砂糖とコ、ナットの栽培のため追はれたのとは異り、成功するに至つた。

しかも時に偶然に幸運が重ねて來て、セイロン高地の珈琲栽培を成功せしむるに至つた。

その第一は英國に於ける珈琲愛用の風習の激増であつた。此は英國の珈琲關稅が半減された事より主として起つたもので、その結果は三年間に二倍の消費量を増加するに至つた。即ち此を數

字で見ると

一八二四年	七、九九三、〇四〇	バウンド
一八二五年	一〇、七六六、一一二	
一八二六年	一二、七二四、一三九	
一八二七年	一四、九七四、三七三	

で、その消費の増勢は、當時の珈琲主産地の、西印度に於ける生産力の限界迄續けられた。斯くして必然的に珈琲價格の騰貴となり、セイロンと印度にて急速な珈琲栽培が始められる事となつた。然も此等は英帝國內であるため、保護政策の恩恵を受け尠からぬ利便を得た。

珈琲の需要は英國より歐洲大陸にその増勢を波及擴大し、特にベルギーとフランスに於て、同様に珈琲消費の増大を見るに至つた。そして珈琲と茶の需要は、到る所で常に酒の消費を壓迫し英國では下層階級にとつてさへ、生活必需品となるに至つた。

その上セイロンより最初の珈琲輸出が行はれる頃、ジャマイカ、ドミニカ、ギアナ等の西印度の強力な競争相手が奴隷の解放により無力になつた時であつた。西印度では此の奴隷解放により生産が變化し、一方セイロンでは新しい繁榮の道に入つた。かくて、一八二七年から五七年に至る英國珈琲輸入統計は次の如く變化した。

年次

西印度より

セイロンより

14.5  
9371

一八二七年 二九、四一九、五九八バウンド 一、七九二、四四八バウンド  
 一八三七年 一五、五七七、八八八 六、七五六、八四八  
 一八四七年 五、二五九、四四九 一九、四七五、九〇四  
 一八五七年 四、〇五〇、〇二八 七六、四五三、六八〇

斯る状態の下に、カンデー高地の珈琲栽培は多くの経験を集めて着手された。そして二三十年の間に島の産業的衰態が回復され、従来の單なる仲繼的軍事的植民地から、繁榮した英國植民地へと變つて行つた。かくて西方社會と東方社會との最初の連結がセイロンに於て完成した。政府の指導も、急速にかゝる風潮に追隨、プランテーションの試作場がガンボラその他に開設された。最初珈琲栽培は比較的低い高度で行はれたが、それでも低地より優秀なる事が立證され、量質共に満足する事が出来た。此の時に當りエドワード・バーンズ卿が一八二六年に本國政府に建議した保護關稅の要求が再び叫ばれ、一八三五年には遂に、關稅は東西印度共に平等となり、西印度の生産が停滯困難に陥るや、代つて世の注意はセイロンに向けられるに至つた。その次の年に山林四千エーカー餘がにはかにプランテーションと成り、そして到底信ずべからざる短期間に王領の土地は、一年に四萬エーカー餘が賣却されるに至つた。試みにその拂下高を年次別に擧げれば次の如くなる。

一八三七年 三、六六一エーカー

一八三八年 一〇、四〇一エーカー  
 一八三九年 九、五七〇  
 一八四〇年 四二、八四一  
 一八四一年 七八、六八五  
 一八四二年 四八、五三三  
 一八四三年 五八、三三五  
 一八四四年 二〇、四一五  
 一八四五年 一九、〇六二

カンデーの各山脈の麓はかくて急速に、プランテーション化し、ドームベルの大溪谷アムボガムモア、コトマリ、ブシワラの谷々は投機者により占められた。そして彼等のエステートは急激にヌウラ・エリアに向つて上つて行き、バックとウトヴァーに浸潤した。

そして珈琲園はアダム峰の麓を廻つて人里離れた丘々に開かれた。最初の熱心を冒險開拓者は道なき森を通り、丸木小屋を建て、住み、數ヶ月間かくする内に栽培する爲木を切り倒し、苗圃を準備した。併し二、三年内に道路は改良擴張され、彼等の小屋はバンガローと成り、ヨーロッパ風の快適で繪畫的な植民地となつた。ジャングルの新生活は刺戟的であつたが、野象や豹の侵入と戦はねばならなかつた。

珈琲熱は一八四五年にクライマックスに達した。ガバナール・司令官・文官・軍人等が、カンデーの丘に侵入し、王領地の購入を行つた。東印度會社の役人迄もセイロンに來島し彼等の貯蓄を投じた。毎客船に英國からの資本家が乗船してゐた。移民も之につれて來たが利得に汲々とした。五百萬スターリングが餘り長年月たぬ中に投ぜられた。土地獲得の競争は、只カリフォルニアと濠洲の金山に對する動きと似てゐた。兩者の差異は後者が金を發掘する代りに前者は彼等の金を植える事位である。

此等の投資中に恐慌が突然來て、栽培業者に一大災厄をもたらした。一八四五年の英國に於ける商業恐慌は、急速に破壊的な影響をセイロンに及ぼした。送金は中止され、価格は下落し、信用は破壊され、やがて混亂が鎮靜に歸したが、その結果として生れて來たものは保護の消滅であつた。かくて長くジャワとブラジルの珈琲の競争より防いでゐた保護關稅が撤廢されて、セイロンに於ける無法な珈琲熱は完全に消え去つた。

エステートは市場に投げ賣りにされ、廿のエステートが放棄された。

一八五七年四月發行のカルカタ・レビューには、バツラの二つのエステートが、一萬ルピーの價格があつたにも拘らず、只の三五〇ルピーで賣られ、ヒンヅーガラ栽培地も一萬ルピーの價格のものが五百ルピーで賣られ中にも一エステートの如きは只の四〇ルピーで捨て賣りされたと記されてゐる。賣却されぬものでも、再び昔のジャンダルに還つたものも多かつた。近々二、三

年の中に企劃は中止され、荒廢状態が再現、資本と正しく結合したもののみが、撻まぬ勤勉の結果、終局の成功を收めた。(註、失敗のみ成功を齎らす)

一八四五年恐慌の結果、堅實な經營が漸く一八五〇年頃になつてセイロンに現れた。經營については、別に一の主義はなかつたが、注意が土と状況に向けられ、種々な試験が行はれ従前の高度に關する迷信は打破されるに至つた。不適當な栽培地は放棄され、生産力の少い地方も中止され、かつて植えられた所でも、珈琲叢林となつて野生してゐる所は再び考慮された。

全エステートはかくて一つの庭園の如く連結され、好適なものとなつた。英國の消費も無法な消費が減り、確實なものとなつて生産も安定して來た。

森林地の一エーカーの地價は、一八四四年の地價の十分の一で買ふ事が出來た。

珈琲栽培は一八五七年には、理想的となり、不幸な思惑が無くなり、土壤と氣候の優劣性が發揮された。價格も需給が平均して固定し、安定してきた。

かくてタミール人の勞働移民を招致しても、賃金の高低が、價格の思惑による變動のため左右され、給料に誘惑されて漂泊する事はなくなり、都合が良くなつてきた。

かくてその後の作業毎にマラバル及コロマンデル地方のタミール人の勞力を借りねばならなかつた。

彼等の出發は印度に起つた種々の原因により影響された。『そして不慮の事件でせき立てられ

た。タミール労働者は印度の銀相場の中では割合高く酬むられた。加ふるに、彼等の消費に對して輸入した米が支給された。その米は貨物運送、關稅、そして丘上への運搬に苦しみながら輸入された。

珈琲の實がつみ貯められた時に、人力で、之を山から輸送する爲に、彼等は險路の小徑で、屢屢危険に遭遇した。その上珈琲園には種々の災害も起つた。樹が成長する間に行なはれる自然的原因も、その一である。山の谷からの旋風は樹を吹き倒し、樹木に被害を與へた。野猫と猿とリスが果實を食ひ荒らし、毛蟲は葉を蝕み、そしてそれより厄介な昆蟲——栽培業者にコーヒー・バツダ (Coffee-bug) と呼ばれてゐるものが、若い發芽と萌芽上に繁殖し、有害な蝨で彼等の幼蟲を包み、惡影響を果實に及ぼし、萎縮落果させた。

他の季節には野鼠の害が多く、果實を取り盡される事もあつた。無数の群をなす野鼠はエステートに侵入し、若い枝をかじり、木の葉と樹枝をはいだ。此等の一千餘匹が一日に一エステートで殺された。そしてマラバルの労働者は大好物として彼等を焼き、コ、ナットの油でいためて食べた。併しセイロンに於ける珈琲栽培はかゝる障害を越えて伸展した。

最盛時の一八五〇年代の一般的结果は、將來可耕地の大きな部分を除く、四百四のエステートは六三、七七一エーカーに上り、マラバル・クローリーの數は收穫時には、一エーカー二人と見積られ、一二九、二〇〇人で二年平均の生産量は三四、一〇〇 cwt であつた。

此には勿論彼等のエステートの附近の村々、又は離れた村々の住民による採取數量を省いてある。それは同年に十六萬 cwt であつて、多く輸出された。

その傍、多量の自家消費が保留された。原住民の栽培は一エーカー五・五 cwt の平均收穫がある故、住民の栽培面積は一八五七年度に於ては、五萬エーカーに達するであらう。随つてセイロンの珈琲園は、十三萬エーカーに上るものと想像された。而かも將來尙三倍に擴張する可能性が豫想されてゐた。それに要する労働者はタミール人が最適であり、而かもタミール人の低賃金は珈琲園の維持の上に必要であつた。

將來に於ける英佛需要の増大を見越して、廿五萬エーカーの耕地と二百萬 cwt の珈琲を島で供給すべく主張された。

一八三七年の十萬七千ルビの輸出が、一八五七年には一二九萬六七三六ルビに達した事、フランスで、一八五六年度に、セイロンより三分の一以上の珈琲を輸入した事、オランダがベルギー及ドイツに對する仲繼貿易を含めて、珈琲の輸入を増大した事等は、擴張論者の有力な根據となつた。

その他濠洲・米國にても需要が増加した。シンハリ人の珈琲は南米に送られ、そしてアラビアとベルシヤ人にとつてすら、コラバル及セイロン珈琲は、モッカ珈琲に代つて愛用される様になつた。

かくて珈琲の栽培により貧弱なセイロン經濟を世界的に高揚し、マナール灣の眞珠と共にセイロンの土産中の王座を占めた。

二、珈琲園のタミール人労働者

A・M・ファーガソン (Ferguson) 氏の記録によると、一八五七年に於けるエスチートの労働者は十三萬人餘で、その詳しくは次表に見る如くである。當時のシンハリ人(ハリー人)の労働力四、五十萬人に比べれば、相當大なる労働力を示したが、後述の如く珈琲栽培の性質により、男子のみ出稼労働者であつた事にその特長がある。

「セイロン珈琲園」フターガソン調査 “Ceylon Observer” 11th July, 1857年

地方名	エスチート数	耕地	未耕地	計	産額	エーカー當り	クーラー数
1 Allagalla	14	1,900	400	2,300	7,000cwt	3.7cwt	4,000
2 Ambogama	21	4,340	290	4,630	12,000	2.7	6,000
3 Badulla	23	2,300	500	2,800	13,000	5.6	5,000
4 Dimboola Lower	7	1,590	170	1,760	8,500	5.3	3,000
5 Dimboola Upper	7	1,110	330	1,440	3,550	3.1	2,000
6 Dollsbage	18	2,900	370	3,270	9,500	3.3	5,000
7 Doombere	9	1,520	250	1,770	16,000	10.5	3,500
8 Hantanne	22	4,090	700	4,790	16,000	3.9	7,000
9 Hewahette Lower	17	2,550	720	3,270	16,000	6.3	6,000

10 " Upper	11	1,790	944	2,734	9,000	5.6	5,000
11 Hunageria	17	3,661	588	4,249	23,000	7.6	8,000
12 Kaduganua	20	3,976	1,651	5,627	17,000	4.3	8,000
13 Kalibokka	13	2, 60	770	3,430	2, 00	7.5	6,000
14 Korregalle	20	2,500	750	3,250	10,000	4.0	5,000
15 Kotnalie	22	3,800	261	4,060	18,000	4.7	7,000
16 Kruckles	16	2,045	792	2,837	12,000	5.9	5,000
17 Matelle, East	27	3,291	1,712	5,003	26,000	7.9	8,000
18 " West	16	2,100	330	2,430	15,500	7.4	5,000
19 Maturatte	10	330	890	1,220	2,600	7.9	2,000
20 Medamahawera	9	395	450	1,345	4,500	5.0	2,000
21 Nilambe	9	2,180	390	2,570	14,000	6.4	4,000
22 Pusiwa	23	6,330	570	9,900	40,000	6.3	10,000
23 Rangbodde	19	1,111	952	2,363	7,000	5.0	3,500
24 Rangalla	8	1,095	320	1,915	9,000	8.0	3,500
25 Safragam	7	1,200	500	1,700	5,000	4.2	2,000
26 Waliapane	5	777	30	807	4,500	5.8	1,000
27 Yaddessa	8	1,430	580	2,010	8,500	2.4	2,500
Et	403	63,771	17,179	80,950	347,100	5.5	129,200



1857年 セイロン人口

地方名	白人		有色人		計		一方傭人口
	男	女	男	女	男	女	
西 部	1,213	1,246	23,409	259,106	234,702	260,352	146,60
西 北 部	21	11	100,807	96,336	100,828	93,337	59,93
南 部	238	211	156,903	149,649	157,118	149,890	14,72
東 部	201	143	39,928	35,531	40,124	35,674	16,08
北 部	387	332	153,062	143,678	153,449	149,010	55,85
中 部	468	204	143,472	116,287	143,940	116,441	52,57
計	2,608	2,207	887,573	805,557	850,181	807,794	69,73

かくの如く珈琲エステートを維持する上にタミール人の移民は絶対に必要となり、來島の便宜の爲、北岸迄新に道路が開通された。

かくてタミール人の勞働力はセイロンにとつて恩恵を與へるのみでなく、南印度にも利益を授けた。始めの時代は過剩勞働力に對する一の放出口であつた。そして恐しい窮乏より逃れる爲、タミールの多數が飢餓に迫られて來島した。そして南印度の賃金より、一層高いセイロンの方向に流れてきた。

毎年多額の金が、タミール人の出稼移民によつて、故郷への年貢として持ち歸られた。随つて彼等はセイロンで成るべく高賃金で雇はれる事を望んでゐた。

併し珈琲園の勞働は、恒久的のものとしては左程要求されなかつた。即ち珈琲の收穫時に一時に勞力を要し、施肥、除草その他の耕作には左程大きい勞働力が必要ではなかつた。随つて季節的な出稼移民をその特長とした。

珈琲園のエステートに働くタミール人勞働者は、かくの如く出稼ぎ人であつた事に、急速な成功をおさめた一大原因があらう。その移住は募集方法により行はれ、通常カンガニーが園主より經費を貰つて南印度に渡り、タミール人村落の農村共同體の主だつた人々に贈賄して——夫も僅僅數ルピーか傘等であつた——種々の便宜を得、村人にセイロンの面白い話をし、そして高い賃金の事を告げ旅費は無料である事を語る。タミール人はセイロンに行けば一種の屋外勞務者となるのであり、社會生活上は母國南印度の方が良いのにきまつてゐた。そこではタミール人は自由の農民であり、セイロンよりは良い家にすみ、うまい食物を食べる。そして一人前になれば鶏と羊を所有し、彼等の風習に尊敬を持つ地主に壓迫される事はない。彼等の思想は單純で言語も語彙少く、趣味も簡單で、そして常に隣人と平和にすんでゐる。

昔の珈琲エステートの園主はタミール人を全く從屬せしめ、環境的にはタミール人にとつて決して有利なものではなかつた。併しセイロンのシンハリ人達は、森を焼く最初の仕事以外は勞働を嫌惡し、又未開の森林地廣く、當時の人口密度も一方哩當七〇人で勞働力も亦乏しかつた。勞力はバイオニアールにとつて心配のものであり、小道を注意しつつ、頭上に珈琲の實をかつぎ、遠い距離の山を下るのはシンハリ人にとつて非常に嫌惡すべき仕事であつた。

今でも數哩にわたつて人力で運んでゐる茶のエステートもある程で、此の困難な仕事を、タミール人は、進んでやつた。シンハリ人は、随つて、現在の茶園に於ける場合と同様に、珈琲の栽培に對して興味を示さなかつた。随つてタミール人の招募は必要となり、タミール人も過剰人口による生活窮迫を逃れるため喜んで出稼に應じたわけであつた。

タミール人の珈琲エステートの労働者は随つて春秋に雲集した。

セイロン島のマナールの海岸に上陸すると二百哩程北方道路を南下高地のエステートに到着、又その道を故郷に歸るのであつた。此の長い二重の行路と行旅の困難と雇傭の性質から、婦人子供同伴を不可能となし、エステートの労働者は漂泊的の男性のみから成つてゐた。茶業が始まる前迄は、タミール人の家族は移動定住しなかつた。茶栽培が始められて以來始めてセイロン生れのタミール人がエステートに居住して働く様に成り、セイロンの労働界は不正確で無駄な出費を伴ふ、南印度からの労働移入から獨立する事が出来てきた。勿論タミール人のセイロン來住は歴史的には古くから關係があり、最初の移住は紀元前二〇四年にジャファナに行はれ、それより後も屢々シンハリ人と闘争を交へ之を南部に壓迫した。随つて北部セイロンには土着のタミール人も住居し、或はコ、ナットの栽培に従事し、或はムーア人の機織に雇はれ、或は葡萄園に働いてコロンボに賣出してゐるものもあつた。併し、エステートの労働者は英國の珈琲エステートより中央高地を中心に新しく興つたものである。

珈琲栽培の爲に要する労働者契約の條件を設定する爲、カンガニーは、海岸地方の南印度に赴くと、貰つて來た金を以つてタミール労働者と年極の契約をする。そして賃金は彼等に責任を負はしめる爲、前拂ひにされた。返済は通常一シーズンの終りにヘッドマネーとして、又コンミツションとして支拂はれた。前貸の小額は彼の村に於ける地方的の借金に對し、セイロン島へ移民出來る様に支拂はれた。随つて初期の移民が貧民を中心にした事が窺はれる。

此の組織は非常に巧く、長年の間行はれた。併し大きなそしてもつと恒久的な労働力が、茶の栽培の爲起つてくると、タミール人への前貸は定期的清算なくして持續出來る様になつた。

### 三、茶業エステートのタミール人

一八七〇年來セイロンに於ける珈琲栽培がコーヒーバッグの蔓延のため衰微し、珈琲エステートが茶のエステートに變換し始めるやタミール人の労働に大改革が起つた。

例へばプセラワ (Pussellawa) の如きは一大珈琲産地であつたのが、今は立派な茶園に代つてゐるが如きはそのプランテーションの變遷を物語るものであるが、高地は茶とゴムの栽培に變じ一九〇〇年に於ける珈琲の産は僅一萬三千ハンドレッド・ウエートしかない有様となつた。エステート労働者の數は一九〇〇年には四十萬人に上つたが、此の中只の七%がシンハリ人で後はタミール人を主とする。珈琲時代に比べて、茶園の労働は年中多忙であり、而かも、女子供にも

適富な職があり、タミール人はセイロンに定着して農業労働に従事する様に成り、カンガニーの招致も定着性を重んじて家族同伴の移住を歓迎する様になつた。此は全くマレーに於けるゴム園のタミール労働移民招致の方向と一致する事になつた。タミール人は移住先では自由農民より労働者へ轉落することに成つたが、併し南印度にては地租設定により農村共同體が崩壊して小作農と化し、然も印度第一の飢饉地域に屬する爲、生活は頗る不安となり、食物と生活の安定したエステート農業に従事するものも漸増して來た。而も南印度はセイロンに比して人口過剰であり、セイロンに於けるタミール人口は百年内に急激に激増した。

彼等が茶園の雇傭主から分離しようと思ふ時彼等は契約解除通知書を乞ふ。此は通常タンドゥー (Tandu) と云ひ支拂ふべき姓名と男女性別を書いたもので、そのエステートが支拂ふべき金額及出發の日時が記されてゐる。そして契約は長期化し、他のエステートに赴く時が決算の時になつた。

此のタンドゥーは監督の手を経て、労働者に渡され、双方共に満足出來たものであつた。新主人はタミール人クローリーに負債の總額を定め、その名をチェックし、同時に米の給付額を定める。

それは又、法律上の證據となり、契約書となつた。ゴムの栽培が始るにつれて、茶園に於ける労働者の募集も非常に骨の折れる事となり、サーピスの増加となつた。随つて労働者獲得の爲、

競争が激化し、タミール人に對する前貸制度 (Cost Advance) は過重負擔となつてきた。

そして費目は複雑となり、補助的支拂は増大し、労働者一組の仲間同志の借金、及市場の原住民店主からの借金迄も含まれるに至つた。

多くの場合、此等は苦力達の再支拂のものとなつたが、併し Cost Advance として見られるものは喜んでエステートの貸借表に受け入れられた。但し表面的價値は検査される事は當然であつた。此の組織は長い間續いた。カンガニーと苦力が異常に正直である限り、彼等の親戚の負債をも連帶して支拂ふ事さへあつた。正直はヘッドカンガニーから約束の文書を受ける捷路であつた。カンガニーも苦力に事件があつても主人を心配させなかつた。彼等は比較的に富んでゐてマラバルとタミールの海岸地方に、土地家屋を持つてゐて、自分で措置をした。コースト・アドバンスの制限がエステートの主人達により聯合規約が作られたにも拘らず、競争々奪の劇しさで組織の悪用が始つた。

それにつれて労働者の移動も多くなつた。そして徒にカンガニーに多額の金を利得せしめる丈けとなつた。カンガニーは島で一番高賃金を出す雇傭主を求めて歩く様になつたからである。彼等は金錢獲得以外に何も目的はなく、家屋土地を南印度の故郷に増加するか、又は金貸をするかであつた。しかし苦力の方は家族を連れて移住するのが面倒であり、然も分前は貰へず困難するに至つた。茲に於てコースト・アドバンスとカンガニー制度の検討が政府の手により行はれる事

と成り、一九二一年にコースト・アドバンスの法律が廢止された。そして Tandu は如何なる形でも禁止された。かくてコースト・アドバンスの額は屢々エステートのバランス・シートより無視され、數百萬ルビーの價格があつても、實際は誇張された紙上の負債と認められて、新しいエステートの買手によりもつと安く返された。或は又所有者の同情的考察と會社の支配人の考察の中に入れられた。支拂能力ある價格のみが三―五年の間に支拂はれた。かくて買辦的な請負制度は崩壊し、労働者は契約から突然解放された。その爲労働の移動は激烈となり、賃金は、労働者の争奪で高騰した。それよりも労働者の移動率の激増に困却するに至つた。労働は現金による短期のものと成り、その固定の爲にカンガニーの力が再び強く必要となつて來た。經驗あるカンガニーは再び労働者監督として重用され、誘惑から苦力を保護する事が出來た。

此に反してカンガニーの居ないエステートは労働者引拔の的となつた。かくて労働の移動を妨止するために賃金の公定が成された。そして資本主義的労働賃金制が劃一的に制定された。

それ迄はタミール苦力は如何なる重要な額も實際の現金で受けとらなかつた。色々の物資が安く支給された。殊に一九二〇―二一年の飢饉の際は米が半額で支給された。そして無料の家に住み、附屬の土地で自由に蔬菜の栽培が出來、労働年齢に達しない子供には食事が支給され、病院も自由で、癒る迄米が増加されて給與された。その上人頭税を免除され、如何なる直接税も納付する必要がなかつた。しかし現金で支給される様に成つても、セイロンのコロomboの町のタミール人及南印度の兄弟達よりも賃金が高かつた。それで移民の流入は依然行なはれた。

印度政府のすゝめで、長い交渉の後、印度政廳とセイロン政廳の間で、最低賃金令が印度移民労働者に對して、セイロンの Legislative Council を一九二七年十二月に通過して、監督により公布された。

此は一九二七年一月一日から移住して來る労働者に適用された。一日九時間労働で、

低地	五〇仙	四〇仙	三〇仙
中部	五二仙	四一仙	三一仙
高地	五四仙	四三仙	三二仙

その他、食事の一時間は之に含まれ、時間外に働いた時は夫々特別手當が支給される。委員會では又全てのエステートで一ブッシェルにつき六・四〇ルビーを超えない範圍で労働者に純米を支給する事が認められた。米の配給は一男子につき1/8ブッシェル以内、一女子につき3/4ブッシェル以内、一小兒につき5/8ブッシェル以内であつた。以上を増す時は一男子1/8ブッシェル、未亡人に1/8ブッシェルの割合で、子供にはカレーと米の食事を支給する事が同意された。

法令は圓滑に施行され、一九二九年に於ける印度移民管理官 (Controller of Indian Immigrant Labour) の報告によると毎年エステート労働者の七分の一が休日に南印度に歸つて、その

良好の状態を話す爲、セイロンは南印度で評判になつてゐると云つてゐる。

次にタミール労働者の標準賃金を示す。

Head Kangany	Head Money	2cents per diem	關係労働者一名に付
"	"	Acents "	支配 "
日 給	IRs		
Head Kangany	Head Money	Acents	各支配労働者一名一〇に付
日 給	Acents		
労働男子	一等 日給	五〇—七五仙	
	二等 "	五〇—六〇仙	
	三等 "	五〇—五四仙	
婦 人	一等 "	四〇—四五仙	
	二等 "	四〇—四三仙	
子 供		三〇—三二仙	
手 當	一時間毎に	七—一〇仙	

若しも一家族が男・女及二人の子供とから成つてゐるとすると、彼等の所得は一月に次の如くなる。

男	(廿四日労働日給六〇仙)	一四・四〇	Rs cts
女	(廿三日 " 四一仙)	九・四三	
子供	(廿三日 " 三二仙)	七・三六	
子供	(廿二日 " 三〇仙)	六・六〇	
男	一ブッシェル	六・四〇	
女	$\frac{3}{4}$ "	四・八〇	
子供	$\frac{1}{2}$ "	三・二〇	
子供	$\frac{3}{8}$ "	二・四〇	
その他合計		二七・〇〇	

此に特別時間外賃金を加へて、月収は四五Rs内外に達する。此に對し米の支出は

となる。

此の賃金は熟練により、そして時間外労働により更に増加され、妻は一日に四五仙—六五仙の給料を、子供は一日に十仙—十五仙の特別収入を加へる事は容易である。

一九二三年賃金と生計費との關係の調査が行なはれ、セイロン政府援助の下に、R・ジョーン

スリベートマン氏により報告された。

その結果は注意深く検討され、最近のセイロン労働の事情が記載された。それによると一家族  
 四人の家族で、子供は女子二人とすると、家計の支出は

男子食品及衣料(エステート支給の米以外)	三・九〇	cts
女子	三・三六	
子供	四・一三	
臺所道具、油脂料、果實、マツチ	一・九四	
計	一三・三三	

生活費としては疑もなく目に見えて下つた。

そして此の調査がなされてからも、標準賃金に對して生計費は下落を續けた。随つて労働者は  
 明かに前より財政的に良くなつた。故に正當に働く一家族は少くとも十三ルビーの剩餘金を生ず  
 る事となる。

一年一エーカー當り、茶五百ポンドを生産するエステートでは、組織的に充分に耕されれば一  
 エーカー労働者数は一人の割で必要となる。勿論一年間の或る季節は暇で、殊に女子供に職を見  
 つけるのは困難する。併し休暇を多忙な季節にはとらず、日曜さへも働き、代りに暇のシーズ  
 ンに休んでゐる。歐洲人は日曜日は安息日で休むが、印度では宗教的にさうではないので、雇傭

主の方では、單に休日をふりかへる丈けで、特別の支出を要さず、双方に好都合となつてゐた。  
 タミール人の勞銀は、茶の價格の上下で、別に異議もなく動かされた。

珈琲栽培の崩壞期に當つて、不景氣が襲來してきたが、ガンガニー及労働者は、彼等の雇主に  
 不思議な忠誠の習慣で従つた。

最近一九一二年の米價高騰に基く米支給の削減は、タミール人の不平を云ひ相なギリ／＼の  
 點迄減らしたが、別に大したさわざも起らなかつた。随つて過去に於て英國が豫期した様に、タ  
 ミール人の従順な性格は恐らく將來も繼續するであらうと云ふのが英國側の見通しであつた。

セイロン及マレーに於けるゴム園のタミール労働者も、最近のゴムの下落から賃金が引下げら  
 れたが、如何なる注目すべき紛争も生じなかつた事が、その豫想に更に拍車をかけた。

一九〇四年セイロンの茶栽培はカンガニーの労働者招募を中止した爲、その代行としてセイロ  
 ン労働委員会 (Ceylon Labour Commission) を造つた。かくて封建的な契約的労働者より近代  
 資本主義の労働雇傭の形態が整へられて行つた。島のエステートで働く事を望むタミール労働移  
 民の募集は、此の政府の機關で計畫的統一的に行なはれる事に成つた。委員はセイロンの栽培者  
 聯合に加入する業者が有資格者となり、耕地に對する地方税を以つて財源とした。

主要な委員の駐在地はマドラスの労働移民の中心地トリチノポリ (Trichinopoly) に置かれ、  
 そこより、副委員が各地區に分駐した。

此の仕事は概ね成功し、エスチートの七五%が之を支持し、セイロンへの労働者の九五%は、委員会により責任をとられた。

委員会は彼等を募集するのに、カンガニーの如く、直接募集をやらなかつた。出移民地域に於て宣傳をなし、村々にセイロンの良い生活を熟知せしむる様努力した。そして労働者に銀行として、又渡航の案内役として、世話をした。彼等はセイロン政廳によりマンドパル(Mandaparu)に於て、渡航前六日間、身體並に其の他を調査された。そして賃金は此等のキャンプの中にある間も支拂はれ、旅費はエスチートに着く迄支給される。

委員会の手により移住された労働者の数は年々變化し、一九二〇年から十年間の統計を見ると

一九二〇年	三七、八四八
一九二一年	二二、〇七九
一九二二年	七七、六三六
一九二三年	八九、八五九
一九二四年	一五三、九八九
一九二五年	一二五、五八五
一九二六年	一〇一、七四六
一九二七年	一五九、三九八

一九二八年	一〇五、〇九五
一九三〇年	九一、四二二

で數の變化の原因は種々あるが、主要なるものとしては南印度に於ける農作の豊凶による。即ち豊作の時は賃金も上り、人手も要し移民が減少する。

一九二〇—二一年の移民減少の原因は、印度及セイロンに於ける米價騰貴の爲で、エスチートでは米の支給に困難し、インデアンコーン其の他の雜穀を混ぜて供給した。

かゝる事の爲に、移民の流を一時減少せしめたが、米價が下つて支給が圓滑になると再び増加するに至つた。

一九三六年のセイロン年報によれば、タミール人の移民は次の如くである。

一九三二年	一五八、二二二
一九三三年	一三六、〇五七
一九三四年	二五九、八〇三
一九三五年	一六一、四八三
一九三六年	一五三、九〇五

此の中印度以外から來るものは毎年一萬五千人前後で極く少數である。

出國も勿論多く、略同數が出國してゐる。一九二三年に新しい不熟練印度労働者の移民を調整

する法令が施行された。此の法令に基き公債が発行され、種々なセイロンの産業によつて要求される南印度からの労働者の獲得に要する費用の支拂ひに充當された。

茶園では十エーカー以上の耕地の面積に應じ、一年一エーカー六ルビーと定められた。此の支拂ひは移民の旅費、生計維持、募集費等に支拂はれた。

公債はコロomboの印度労働移民官により管理され、セイロン労働委員に委任される。そして自由な移民史は終焉を告げた。

かくてタミール人の人口は次の表の如くになつた。(一九三六年度)

民族	コロombo	エズタート	他地方	計
Europeans	3,310	2,814	2,999	9,153
Eurasians	15,887	2,031	14,397	32,315
Sinhalese	127,927	75,786	329,317	3,473,030
Tamils	65,704	698,081	653,692	1,417,477
Moors	44,240	7,496	274,177	325,913
Malays	7,022	1,988	6,967	15,977
others	20,035	1,988	10,791	32,564
計	284,155	790,376	4,232,310	5,306,871

#### 四、タミール人の民族政策

前表にてエズタートに於けるタミール人の壓倒的優勢が明に表示される。勿論最近の Crown

Cohort誌によればシンハリ人のエズタート労働者も漸増の傾向にあるが然しその絶対数はタミール人に及ばない。セイロン人口中、大なる位置を占め、栽植労働者としてシンハリ土民經濟とは別個の世界をなして住んでゐる。

タミールの菜園労働者は、壓迫された階級又は不觸賤民のバラン (Pallan) バリア (Paliah) とサイクリ (Sakili) 等が生まれた。勿論上位の階級のチェツタイヤ (Chetty) ヴララ (Vellala) アガムブッディアン (Agambuddian) カラン (Kallan) マラバン (Maravan) ナナイアカン (Nai-akan) も彼等の間に見られる。

通常階級の良いものは正しく良く働く事を示し、彼等の故郷乃至その附近に土地と家屋を買ふ爲に、金を貯め所得を増加する機會を持つ。低いカストの労働者は之に反し、かう云ふ例は稀でセイロン島内に於てさへ、彼等の生活標準を上げる事を試みる事が稀である。何となれば彼等が米代を拂ふと残りが少くなる故、労働の變換と米の供給の嚴重な割當が英人により對策として議論された。

最初タミール労働者は男も女も、通常良い氣質を持ち、そして快活な人々であつて、精密に雇主の性格をのみ込む事が出来た。そして悪天候に對しても相當耐える事が出来てシンハリ人が雨が降ると直ぐ避難するのに對し、ずつと耐久性が強く、此の點尊敬に値した。相當強い風雨となる迄働いた。



タミールの労働者はしつかりとしたそして相應の處理を要求する。そして訓練に對して答へ理解する。

エステートでは正義が行なはれ、厳しい服従が強ひられる。そして定つた満足な労働力が常に見出された。

併し最近の諸事件は此の様な状態に或る變更を加へる可能性がある。

タミール人は迷信深く、彼等の宗教的儀式の大部分は供物を捧げる事によつて成就される<sup>こと</sup>になつてゐる。生活の不遇をもたらす悪魔を宥め試みる爲に呪文と太鼓の連打が行はれる。此は歐人に取つて子供らしく見える。

然し彼等の無智を嘲笑する事は誤である。そして全ての機會に於て、彼等の儀式と祭典を彼等自身の方法で執行させる方が良いと云ふのが英國の考へであつた。

飲酒は今ではエステートの平常には用ひつけてゐない。アルコールの取引は政府によつて、もつと強く管理されてゐる。そして彼等の一年中の祭典の間のみ一般に行き互る。そして、その嬉しい時でさへ、眞剣な酒の上の紛争は制約されてゐる。

茶の産業の性質として、家族の全ての人員を幼い時代より金錢を得る事に可能ならしめる。少年も少女も、茶摘み見習として八歳乃至九歳位から働き、或は雜草取りの手傳ひ等をする。そして月末にはかなりな額になつて支給される。

タミール労働者の良き活動と援助を受けようと思つたならば、タミール語の日常會話の智識が要る。此はたやすい語であつて、學識ある人ならば六ヶ月位で、英人は日常會話に熟達することが出来た。

タミールの労働者は彼の目的をなしとげるために強い願ひを持つ。そして時には本當にその事を志すのではないのに、無禮で不逞な不平に迄導いて終ふ事がある。それ故タミール人の性質を知り、その言語に通ずるのは英人に取つて事態を健全にする方法であつた。

その他の問題として、エステートに於ける性問題がある。不用心のわなに陥つた或る雇傭主は、甚しい失敗の結果としては労働者が反抗する様になる。そしてタミール人と雇傭主間には大きな溝が生ずる。

全ての賃金の支拂はエステートの監督によつてなされる。若しくは彼の助手も參加して仕事を<sup>する</sup>。併し下級のどの者を用ひても、まかせる事はむづかしい。不満足と不安は常に避け得ない。

野外と工場の労働者は、共に十時間を労働する。タミール苦力の上層階級は南印度のマドラスから來た。そしてアルコット (Arcot) からも來た。それは此等の地方で經濟的變動に基いたものである。

タミール人は習慣的に奴隸である。そして古代のカスト制度の影響は強くタミール人間に擴つ

てその國民性になつた。しかしそれは、南印度に於ける程、セイロンでは嚴重でない。

下層階級は教會による啓蒙につれて、彼等の多くはクリスト教に轉じた。殊にプロテスタントより、華麗なローマン・カソリックが殊に勢力を得てゐる。

彼等特有の方法により、タミール人は清潔な民族である。如何なる天氣の下に於ても噴泉で水浴する。殊に病後は一層劇しい。

そして一九一八年のインフルエンザ流行の時も餘り死ななかつた。

子供は通常良く處理され、婦人の家庭に於ける地位も高い。道德的水準は低く、多妻は實行され、性關係も放縱である。その結果、病氣も屢々起る。かくて英人は多くの保健衛生の設備をタミール人の勞働力維持の爲に必要とされ建設した。改良された住宅と病院が漸次に増加して、漸進的に進歩して行つた。

タミール人は熱帯勞働者として、彼等自身の領域で無敵であり、セイロン、マレーのみならずギネア、フィジー及英帝國の内外に廣く移民し重用されてゐる。英國は此の有用な民族の勞働力を最善に利用するが、併しその状態は彼等の物質力としての方面に注意がおかれた事は疑へない事實であつた。

最初の醫療法令が一八七二年に紹介される前から、已にエステートでは病院が建てられ、タミール勞働移民に對して施療された。

病院は後に醫務局の管理を受け、一九一二年には更に法令が擴大されて施設が増加された。衛生施設も次第に整ひ、珈琲時代種々な汚い長屋が建てられたのが、新しく建て直された。併し一九一七年に強制的に便所が建てられる以前は勞働者小屋の周圍の土の穢れは、普通な事であつた。

トネン病 (Anchilostomiasis) がエステートの勞働者の間に盛であつて、屢々又隣りの村々へと擴大した。病氣はかゝつてから、初の十九日間は認める事が出来なく、下痢、水腫、衰弱等と診斷されて死んだ。一九一六年に米國の International Health Boards の援助を受けて醫務局により病氣に對する争闘が開始された。此の劇しい病の撲滅が始められ、初めて死亡率の減少を見た。便所が建ち、病氣の流行も衰へる様に成つた。小屋の周りの土の汚れは、又悪性の皮膚病をもたらした。そして苦力を數週間乃至一月以上に互つて、勞働に従事する事を不可能にした。併し衛生設備の進歩と共に今日では段々稀になつてきた。それは汚泥の除去と、石の鋪裝によつて効果を修め、更に排水設備が作られてから一層良くなつた。

勞働者は小屋のベランダの中に羊と家畜を飼ふ事が習慣と成つてゐる。併し夫は不潔であるから禁止され、全ての飼育物は離れた小屋の中に飼はれる事と成つた。家禽も同時に問題となつたが、持出可能の圍ひの中に入れ晝は外へ出し、夜間のみ家の中に入れる事になつた。

換氣と採光が住居の上に改善された。従來の低い屋根、小さい戸口、窓の無い事、換氣設備の

缺如、戸口の偏在、建物の密集、ゴム其の他大木が家の近くにある事、そして垣根が家の直ぐ傍にある事等が改めて検討された。

次に清掃の勵行が行はれた。從來餘り注意されなかつたが、監督、カンガニーの監視の下に清掃がなされた。そしてその爲、専門の工夫が養はれた。塵芥は日々焼却される事に成り、家畜の糞尿も處理された。室はペランダと共に六ヶ月以前に白く塗られ、家具は毎日清潔な掃除をなし小屋の周りの排水溝は天氣の良い日に洗ひ流される。

便所は、一九一七年の政廳の命令で大急ぎで作られ、種々の形のものがあるが、木造のものが一番多い。穴を掘る方式は採入れられたが直ぐ失敗だと分つた。それは蠅の發生を助長するからである。或るものは家より餘り遠くはなれ過ぎた所に作られ、おまけに水を缺いたりして、労働者は初めはそれを使ふ事を嫌がつた。併し追々鐵製に改善されて行つた。

幼兒死亡率もタミール労働者の間には大きい、或る場合には五〇%の高率に上る事があつた。之は多忙な母が子に注意の出來ぬ事と生れてから裸で放任しておく事、及び誤つた育児法等に基くものであるが、極力改善の方向に努力した。即ち嬰兒用のミルクの配給等はその一例である。かくの如く衛生設備の方面には事業の遂行上見るべきものもあつたが、生活方面に關しては良く給料を支給したと云つても一家總勤勞で辛うじて生計を維持するのであり、かゝる搾取の上に、その保健設備と種々の設備が建てられてゐた事を看過出來ない。日本との關係に於ては彼等

の搾取を中止し、その生活向上に經濟的努力を試みる刺戟と環境を育成すべきである。

又英國は生活方面は特有の全然無干渉、放任の態度を取り、タミール人が印度教と食物と給料に執着してゐるのを見るや、全くその印度教の迷信を放任した。そして賤民と子供を除けばキリスト教の影響は少しもない。

日本との新しい協同に於ては、日本は進取の規範となり、彼等の向上とより良き大東亞共榮圏建設の協力に向つて、色々指導し、時には嚴父の温情ある嚴しさも必要とならう。

タミール人の個人的感情に關しては、雇主の温情が種々の報恩美談となつて存在してゐる例を見ても判る通り、立派なものであつて、相互協力の精神的基礎は充分にあると確信する。

英國側の搾取的資本主義態度は將に爆發點に近づきつゝあつたと云ふべきで、日本はその解放者として盡力せねばならぬであらう。

又シンハリ人との社會的對立も、英國側が幾多の調停會議を開いても、積極的にまとめる意志がなく、却て民族の對立を劇化し、分離統治を成功せしめたのに鑑み、相互の互譲と協力の上に新セイロンの建設方向へと進む事とならう。

參考文獻

Ceylon and the Hollanders, 1658—1796. Ceylon. 1918.  
 Henry W. Cave : Golden Tips. Lond. 1900.  
 Elliott, E. C. : Tea Planting in Ceylon. Lond. 1931.  
 Tea Manufacture. Colombo. 1931.  
 Colonial Reports-Annual-Ceylon, 1936 Lond. 1938.  
 Tennent, Sir J. E. : Ceylon, an account of the Island, Physical, Historical, and Topographical.  
 Lon<sup>o</sup>. 1859.

岩佐義夫 セイロン島事情 昭十八 千倉書房  
 産業中央會 印度及爪哇茶業調査 茶業中央會

443  
4

昭和十八年十月廿七日印刷  
 昭和十八年十月三十日發行

編纂者 小西千比古  
 發行人 東京都芝區愛宕町二ノ一四  
 印刷者 谷本正  
 印刷所 東京都芝區愛宕町二ノ一四  
 (東京二二五)

額價五拾圓  
 特別行爲稅相當額  
 賣價五十三錢  
 郵稅四錢

發行所 東京都赤坂區表町四丁目一番地  
 財團法人 南洋經濟研究所出版部  
 振替貯金口座東京一四五、八二二番

終

